

角の芝居
二の替り
役者評判記



特43

589

074908-000-8

特43-589

役者評判記 (角の芝居二の替り)

豊島 左十郎 / 編

M11

CEK-0350



博覧強記の編輯 華本文昌堂出版
やくあやひやうをん

其居

二の
多り
博覧強記の編輯

こがゆさくだてのあつせう
おめうのいばせ

前
高田屋の編輯

狂言

彦助改

勝藏

奈河扇助

佐橋富三郎

奈河政橘

奈河三津助

作者

ふり附

山崎

頭取

寶川實五郎

口一

芝居看客戻りの雑評(御座場向ふの襖ふち黒にて中籠才彼れの矢張金襴)方々
 宜い方方袖ケ浦の別邸茶席のよふで茶席にあらま花戸口二戸有て誠に見思ひ併
 庭廻りの体裁(至極妙シヤ)生意氣(忍傷場)大衝立(晋の豫讓)が衣裂く圖
 才と思ひ升彼れの御殿母不似合なり外に考りあか何たり○切狂言印度の場最ふ
 少(少)漫事(少)が舞り手踊りの演(少)くほ(少)い除り精(少)がなかつ(少)○(少)齋(少)と有て(少)夢想(少)兵衛(少)ダ
 羽根を遣ふテ左(少)それ(少)を(少)加(少)で(少)な(少)鳥(少)であ(少)る(少)鳥(少)な(少)れ(少)を(少)音(少)羽(少)屋(少)の(少)五(少)右(少)門(少)太(少)鼓(少)抜
 けの仕掛(少)でも(少)つ(少)と(少)立(少)流(少)る(少)有(少)ふ(少)又(少)佩(少)なら(少)ば(少)羽(少)根(少)を(少)遣(少)は(少)ん(少)方(少)が(少)よ(少)い(少)併(少)一(少)中(少)釣(少)り(少)で(少)花
 道へ這入る(高嶋屋)片足を出す所(夜道)星(以来)の大富(至極)妙々○「娘連」ア
 ノお高(の方)のよふ(右側)治(丈)とア、イウ(放)れ(座敷)で(一)生(氣)樂(に)暮(々)て(居)タイナ
 ア高(丈)キ、美(の)梅(丈)の(珍)賀(も)美(麗)カ「年(増)勢(等)よ(云)せ(ると)八(百)藏(丈)の(原)山(甲)斐(の)
 方が(藝)お(味)有(つ)て(堅)固(て)居(る)美(い)と(堪)る(書)生(の)婦(女)は(世)界(を)別(もの)シ
 ヤ(僕)等(多)賀(之)蒸(が)妹(お)鶴(で)門(戸)口(の)柱(に)撥(り)家(「延)五(郎)と「雅(和)橋(の)酒(落)見

東書

東書

狂言

彦助 改

諺藏

奈河扇助

佐橋富三郎

奈河政楠

奈河三津助

作者

ふり附

山心

頭取

寶川寶五郎

其の雑評(御殿場向ふの襖ふち黒にて中簾才彼れの矢張命襖り方ダ
 ケ浦の別邸茶席のよふで茶席にあらせ花戸口二戸有て誠に見慰い併
 の休裁と至極妙シヤ「生意氣」忍傷場れ大衝立と晋の豫讓が衣を裂く圖
 彼れの御殿母不似合なり外に考いあかひたり○切狂言印度の場最ふ
 舞り手踊りの演くほい餘り精がなかつと○爲心と有て夢想兵衛ダ
 羽根を遣ふテ左それを卍でとなぬ鳥でわろう鳥なれを音羽屋の五右エ門太鼓抜
 けの仕掛でもつと立流る有ふ又偏ならば羽根を遣はん方ダよ併一中釣りで花
 道へ通入る高嶋屋ダ片足を出す所と夜這星以來の大富り至極妙々○「娘連」ア
 ノお高の方のよふよ右團治丈とア、イウ放れ座敷で一生氣樂に暮えて居タイナ
 ア高丈も美の梅丈の珍寶も美鹿り「年増」等々云せると八百藏丈の原田甲斐の
 方が慈ふ味有つて堅固て居く美いと譽る「書生」の婦女子れ世界と別ものシ
 ヤ僕等多賀之丞が妹お鶴で門戸口の柱に據り家「延五郎」と丁雅「和橘」の洒落見

コッコリ突顔とふくみ一時の權の位ふあたかつ「老人」エ、御前達と何と語ふ
のトや劇場の一日の早學文として仁義忠孝勸善懲惡を演る處で心と極て看る時
一端をびこる悪人も忠義の男女か功をにまき善人倍々昌盛る脚色シヤ各台眼の
附々所か辨ふがなア「我利」エ、ナンゾト人の品評より先生の娘の俳優に
花を降猿マンベイ何も知らせと親馬鹿○吝ん「連の人」ワハ、ハ、無駄言ハ置べ
く併し此度の劇場の久し振の上狂言を藝に實が有て面白い故へ大層な人
氣ですナア金ハ無澤山に藏入ダ有増さだるう○作者の勝諺藏せんも倍増其高
で近頃の連體長當り狂言の家元玄やナア○ろうともく併し俳優も大勉強其上
賣出しの若手の一層目立ナア就中鰻太郎の荒木和助が一番好夫れでも十八十腹
シヤ「南の評判記」則該本」讀だら解ると○大ゼイの咄を橋連が聞た儘と爰に
記るして序文に代ふと爾云

角の劇場俳優評判記

寅の年二の替り當と狂言

金九百圓 [一割太ケ 上てわし]

實川八百藏

見立流行物 ○出ると聞より場札を買ふて瀛車にわらぶる容の入
(ヒイキ)ヤレね久一振で丹後屋の親玉待て居ました(芝居好)先第壹番母此人の
評判を聞さい(見功者)合點(三段目)原田甲斐屋敷の段姿と云せりふと
云萬事抜々めのさ取廻し流石當時の大立者顔(ヒイキ)如何玄や舞臺の大き
所と善のろふカナ確り眼鏡でも掛て看てお呉を夫か対決の場(見功者)譽べ
しく何のう何まで宜しいくマツプリ受ました(無駄口)早ふ白状せい(場方)
わんまりえぐひせ(ヒイキ)茲が正味シヤ(見功者)成程ヨイ事ハ善が彌く罪に
服する時板倉内膳正(駒の助)とさつめーろふに白眼むとよで顔色が少一替るト
猶よい(ムメロ)七面鳥シヤあるよい一夫ハ無利シヤ(芝居好)東西(見功者)
未だ々板倉の顔と白眼ん立上ル所が少一疎々がーい(ヒイキ)然一着付のどう

じや(見功者)白粉を濃方で着附の揃く實惡の取廻りの至極妙く(芝居好)其次
が刃傷の場一つとりーているの+(見功者)成程安藝を突きて跡へ下り肩をぬぐ
にくさり編半ふたすたを掛け(ムメロ)腐つてない(場方)いふぬ事の云ふ+(ヒ
イキ)夫うらぶらぶや(見功者)矢張り白の着附おーくやしん(悪口)安藝と立廻り
の所が原田甲斐にーくの早ふ草臥すきて見へたそーて捕手の忠臣藏三段目の様
に上下の上を取た諸士か后のふかゝる方よろし(芝居好)エテく云をぞ點て
おいでをその(見功者)花道のふ安藝を追掛て出る所余り血迷ひすぎる最少し
強死方よろし(悪口)丸て右手や八郎兵衛ト取違へうら+(ヒイキ)いふぬ事と云
ナエフ饒舌なお前口のふ生れたかナトたーなみなさき(サシキ)ーつかりあふ
へまーせ体長く(場方)是が正念場の第一四段目魚賣五平治(三左工門親)住
居の段ドツサリく(サシキ)まつてまーた(ヒイキ)あ、の顔(見功者)ナット
承知シヤく五兩人の立廻り病氣中ながら我子三左工門折鑑する所位牌を持て

腰とのー強死中に病氣の體顯を其味とひい何共云ぬ大出来く(芝居好)得意の
藝丈ヶ適く(ムメロ)張子の虎でそこふつてゐる(場方)どふじや宜かるうふが
な(見功者)ヨイトモく此役の此人に限り升外ふないくいつもふんな役斗り
ーてほしい(ヒイキ)を次が水戸光國公の(見功者)皆迄云ふな(神並三左工門)を
賣て實意と知る所(芝居好)腹があつく大きム+(見功者)そふとをく思ひ入れ
あつて至極妙々(ムメロ)着附が万事ナア(とる口)中にも袷の縫が五月人形似
てあつた(場方)又エテく東西く(芝居好)六ッ目片倉小十郎(サシキ)奇麗ナ
事(ヒイキ)貫目があつてよい事く(見功者)是の別ニ評する所いなー然親方
丈ヶを妙く(とる口)鬚が余り殿さんすぎる厠の屋根へ琴箱の方(場方)またー
くもくいふぬ事を云ふ人トやナ切狂言のモナルハどふじや(見功者)是の格別
評もあませぬがよろしいく流石の藝の虫と云れた大立者(サシキ)其通く
〔芝居好〕ヤーン丹後やの玉く大當りくく

金八百五十圓 〔一割とさつ〕 中村駒之助

○實でも悪でも書載せ見せて色氣も有ます新聞紙

〔芝居好〕ヤーンなんばやの美男子〔娘連〕待てまいた梅丈さんく〔ヒイキ〕若手の色立役サ、早ふ評か聞たいく〔場々〕五ツ目朝比奈彌太郎〔見功者〕チット合點く神並三左衛門と搦捕る所柔術の手誠まわさやの確り受まいた〔ヒイキ〕宜ろふのナ〔サシキ〕善きもく〔場々〕見客一統譽て居まいたお次が茶道珍賀〔機噺〕美しきく〔アキロ〕婦女達の顔が碎け涎で胸迄づく濡お成て居る〔ヒイキ〕是く警事云ふまい〔見功者〕左み評とる所もない立聞の所の取なし頗る上出来〔サシキ〕大語の板倉内膳正〔芝居好〕宜ろふのナ〔娘連〕大さきの梅丈さまく〔見功者〕茲の別評のーませぬ然し花道が來かより長袴を高らげの儘大老お言と掛けて袴を卸す此の所の花道が來より大老に頭を下げ直に袴を卸し草履

を脱てりく大老に言を掛た方よろー〔ヒイキ〕判決の宜ろふ〔見功者〕狐の引事万事早い最少一靜にて得しは〔口〕大名の様よ見へぬザツト天満與方の様ナ〔芝居好〕いらぬ事云ふまゝく夫のふ〔見功者〕内膳正の言ふ神並三左衛門と呼出ー安藝の老人の事故原田甲斐に向い議論いさせと云ふの漢語みて調子が悪イ渾て舊幕府の道具廻り故夫相應の言にーたい然し見客五承知ゆへちちでもよろー〔場々〕切狂言の通辨人辨司〔サシキ〕奇麗く〔ヒイキ〕評のどふじや早ふく〔見功者〕格別評とる所もなぬが人氣の澤山のおい感心く〔場々〕〔サシキ〕〔見物人一統〕その通く上出来大當りく

金八百八十圓 〔確り直打〕 尾上多賀之丞

○誰でも好の國立銀行當時の人氣にやあさびなき

〔場々〕イヨ音羽や待てました〔芝居好〕是の賣出の若女形〔ヒイキ〕いつ見ても

く美一仕事〔サシキ〕神並三左エ門妹〔見切物〕分つてゝ妹お鶴父の病氣を
かゝりやする所何もの取廻し願〔ヒイキ〕宜らうがナ〔見切者〕上出来く然
し髪の様少く浅く髪が出過た〔アタロ〕寫眞にいのんせ〔芝居好〕贅事云ふ
十次が愛妾お高の方〔娘連チ、美麗無駄口〕又顔が碎け掛た〔ヒイキ〕早ふ評じ
や〔見切者〕チットお高の方戀お事寄せ玄番の密話を見顯と所〔芝居好〕ど
ふじや〔見切者〕頗大出来く〔場々〕其通くお次〔ヒイキ〕官事極つてゝ
見切者〕茶と立て殿に上る所杓の遣ひ方妙々然茶と立て一度見て下に置小首
を傾ケ氣の附た思ひ入にて帛紗を出し持添て殿へ上る是は定規の通り茶と立く
一應見て下お置死直に帛紗を出し持添上る事よろ〔アマロ〕アノ思ふと平常帛
紗を忘る事有の知らぬ〔サシキ〕東西く切狂言妻のお虎よりつたナ〔芝居好〕其
通りく〔見切者〕格別評もなし出来まーく〔アマロ〕手踊の時手々下まての
ら上る時の工合がいかに〔ヒイキ〕東西く〔わる口〕モウ少く舞の稽古が仕てほ

一ム「場々」エ、露一いむだき事云ふま〜く「サシキ」人氣の澤山の別段トや流
石女形の体長く「芝居好」ヤ〜大當り有升せ

金五百五十圓 〔五勉強次第〕 嵐 團之助

○覗きや女工場吉野の花よ眼にも曇りのたもつ程
「ヒイキ」是が若女形の別品追々昇升「譯知」當時日の出の團之助美麗十事ある
ふゲナ「場々」其通く娘達も譽て升「芝居好」三段目門番嘉兵衛の妹「見切者」お
梅の別に評する所なうつた「サシキ」切狂言の桃艶婦人の中々味くやられまー
「見切者」然し今度の評とる所がなかつた次の替と母の何の骨しん役の附を
芝居好「待て居升伏見やく

金六百圓 〔四割の〕 市川 鰻太郎

○煙りの中よりあふわれ出て皆に追ぬく蒸氣船
「芝居好」是ハ日の出の若立役「サシキ」其通く待てまゐた「ヒイキ」二段目荒木
和助の「見功者」鐵之助トの取合大出来く「場々」宜ろふ三段目獄屋の場々如何
「サシキ」味くやふれまゐる「ヒイキ」知れた事若手の第一腹が有ふがナ「見功者」
よろつたく毒の巡りか減とあんちものかト實に感心く一日中の親玉受まゐ
らく「芝居好」右團治丈の替り神並三左工門の中々味ひ「場々」見客一統譽てま
ゝ「見功者」勝て兜の緒と締たりく「アマロ」任舞迄鯉太郎さんよゝてはゝ
「ヒイキ」追く御出世を待て升「芝居好」ヤール第一等の大當りく

金五百圓

〔近々増〕

中村友三

○嬉し新聞演説會ハ六ツケ敷中ふも笑わるゝ
「場々」茲ハ京屋の親方面白かるふがナ「ヒイキ」門番嘉兵衛出来升カ「サシキ」次

の大場道益ハ如何トや「見功者」出来らく併一鬚が有て被布を考く居り取附惡
く大名のおじに鬚のなれ方よろし「とる口」あんち醫者にみへた「芝居好」贅
事云ふまゝく酒井雅樂頭ハ「見功者」相應ナ役故評する所もな「ヒイキ」切狂
言のマドロスハ至極大出来「芝居好」その通くヤール大當りく

金九百圓

〔タツアリ〕

市川鯉十郎

○いそがななくても此郵便ハ何所の角もも行届く
「ヒイキ」此所ガ播磨屋の親方「芝居好」何役をしても宜い見飽のせぬ名人トや
「サシキ」其通く早ふ評に掛つたく「場々」二段目松前鉄之助出来まゐた「見
功者」成程宜いムダ荒木和助と立廻りの所少ぬる一和助も負る體あり其他さ
のみ評する所あり「ヒイキ」夫でも達者を見せこが有まゐた「とる口」鉄の助のよ
ふな役ハ此人に不似合最少一たやじ役ガ「サシキ」何を云ふのさや其次ガ伊達

安藝〔芝居好〕ナット其通り随分上出来〔見功者〕是も評する所なり原田甲斐と
いめ刺てから板倉内膳正お出合の所〔ヒイキ〕とふじやく〔見功者〕最少一居直
り思ひ入れ有方よろし〔ヒイキ〕とふ云いたらとん事事も言る此役の極上出来
く〔場々〕確り貫目が有て宜つたく〔芝居好〕ヤノ播戸屋の先生大當りく

金七百五十圓 〔確り〕 市川猿藏

○學校仕込に勉強それの試験する度手の上る

〔ヒイキ〕是は成田屋で五座り升〔棧敷〕確りして出来升く〔場々〕搭別ナ事モ
一七ツ目島田玄番ダ〔芝居好〕大出来く〔見功者〕然してたへなんだとの評〔サ
シキ〕イヨ出来まーたく

金五百五十圓 〔早ふ増〕 實川百々之助

客ハ入船藝も安治川お廻り道具の磁石橋

〔芝居好〕コンジャイナく出来升く〔場々〕是といふ事モあし〔ヒイキ〕チでも
役が役ゆへ〔見功者〕受まー右團次の替り神並三左衛門〔無駄口〕矢張殿太郎が
よのつよ〔ヒイキ〕贅とやめく〔サシキ〕大當りく

金五百五十圓 〔近々〕 市川鬼丸

○當時人氣のよき寶丹の薫りよ色氣もあるわいな

〔場々〕是が評判のよみ鬼丸て有ます〔ヒイキ〕宜いぬく四段目搦澤丹三郎〔芝
居好〕魚賣五平次の内へ詮議に来る所〔棧敷〕出来たく〔見功者〕ヨシく神並
三左衛門の心體と察す思ひ入有ますく然一門口の立聞もふ少一腹がないとの
評〔ヒイキ〕とふでなぬよかつたく

金五百五十圓

〔増まそ〕

實川延五郎

○ナヨイト便利ナ人力車酔ふた機嫌の片相手

〔サシキ〕延五郎さま〜〔場々〕何でも出来ませ〜〔ヒイキ〕取分け家主松兵衛が大當り〔芝居好〕場中一統笑ひせ〜ヤ〜面白ひ〜

給金不定

〔次の替り母極め升〕

扇野伊三郎

同

〔おなとく〕

市川家久藏

〔ヒイキ〕伊三郎の龜千代家久藏の千代松〔場々〕いづきも大出来〜〔あだ口〕右團治の愁ハ此兩人で聞ま〜た芝居好未頼母〜く存し升〔サシキ〕五成長待

升〜

金一千圓

〔二割り〕

市川右團治

○千里モ一時に知ふせる業わ人の上行電信機

〔ヒイキ〕此所ハ人氣の親玉評判の高嶋やで有升娘連待兼ました場々何役でも美麗で手早ハハハ感心〜アダ口娘さん待て居るソリヤよふす仕掛けた

〔サシキ〕ハハハと止めて早ふ藝評を芝居好五ツ目鹿嶋明神前見功者チツト承知〜神並三左衛門朝比奈と立廻り相摸の手にて思ひ入たつぶり流石當時日

本中に其名も高き高嶋や至極妙々ヒイキ宜るふ〜サシキ次ハお乳人淺岡ハヒイキ何にも云といでも善とい違わぬ場々その通〜御殿場ハどふぞや

〔見功者〕受た〜淺岡立廻りと云ハ愁の聞と流石女の鑑となる忠貞見へて看物一統泣ま〜た大々妙々受ました〜場々うの通〜をさうら見功者千代松

ふ始て逢〜時愕の仕儀ハハハハハの評何でも角でも人氣の親玉芝居好次ハ伊

達綱宗「娘連」美えい殿さんく「見功者」餘り人氣の強ひので別に評わ仕ません
 「棧敷」次の大誥神並三左エ門の「見功者」方事ぬけ目なく第市川の大達者と東京
 とも噂の有ます「場々」切狂言の夢想兵衛「ヒイキ」支那の場の誠に「見功者」合点
 く「夢覺て徑足に縋れて居所へ支那人來り仲立て桃艶夫人の彈になさんと云
 ふ所餘り驚きが強ひ「ヒイキ」そんなとのおもむど「棧敷」夫ら如何「見功者」底で
 只寝て居るなふ宜の徑足に縋れて居と余程大臣の體ある故悠然として中に驚き
 又遠慮する味わひ有て然るべし「アダロ」何程高島やかてうない自由あいなふ
 ぬ自由に成るのの「蔦麻の上」檜連「中」鶴やの藝當の流石お家の十八番「棧敷」人
 氣の司て五座を升「ヒイキ」相も變らぬ大入と大極上のお手柄く

明治十一年四月十三日出版御届
 同年同月十六日刻成出版

(定價三錢五厘)

編輯人

出版人

大坂府平民
 豊島左十郎
 第一大區二小區糸屋町
 二丁目三十番地
 大坂府平民
 華本安治郎
 第二大區九小區難波新
 地二番町八番地

狂言 劇場の脚色

角の芝居の部(二錢五厘)
 中本 全壹冊(中の芝居の部近日出版)

此本と讀むと彼の新狂言の大序より大切やで委敷りかり頗る面白ふなり

○此評判記ハ好事家諸君の需ニ依テ集評ヲ得至急編輯ニツキ租漏之廉 大要
 御みゆる一ナ希ふ備次編よりの諸方見功者の評 集メ且諸君子方ノ五報知ヲ得
 テ文例も一變し追々出版仕候に付何卒五ヒイキノ諸君陸續御求めわらん事ヲ伏
 て願ふ
 附言見功者の諸君高評のうの大取不迄五投評度下被其蓋聲ニ依て聊謝慰ト
 して製本献呈可仕候 版元 華本文昌堂敬白

所	同種編町	高知本町二丁目	徳嶋通二丁目	岸和田通二丁目	堺大神南熊野町	長崎勝山川西海新町	熊本鹽屋町	鹿島中之町	松山湊町西丁目	廣島中島本町角	岡山山下之町	姫治俵町	兵庫湊町三丁目	神北長狭通五丁目	同佛光寺東洞院	西京新極蛸樂師	大津丸屋町二丁目	名占本町二丁目	横濱馬車道	同虎門外琴平町	東京新出雲町	
別																						
賈																						
假名	澤本	栗尾	坂井	本庄	北村	似文	水嶋	吉田	玉井	柳川	河田	伊藤	金港	日本	本城	太田	澤田	内田	守屋	靜屋	假名	
讀	本	本	井	庄	村	文	嶋	田	井	川	田	藤	堂	城	田	田	田	田	屋	屋	讀	
新聞	駒	尾	萬	治	佐	會	貫	太	治	種	源	七	支	兵	權	二	二	二	正	正	新聞	
社	吉	藏	吉	郎	平	社	之	郎	郎	吉	吉	郎	店	堂	衛	七	七	七	社	社	社	
大坂心齋橋通本町	芝居番附版元	玉取活版社	進取活版社	進取活版社	進取活版社	進取活版社	進取活版社	進取活版社	進取活版社	進取活版社	進取活版社	進取活版社	進取活版社	進取活版社	進取活版社	進取活版社	進取活版社	進取活版社	進取活版社	進取活版社	進取活版社	
同道修山南	同安堂寺町	同鹽町角	同周防町南	同三ッ寺筋	同日本橋南詰	同同登丁目(ヨコチ)	同同登丁目(ヨコチ)	同同登丁目(ヨコチ)	同同登丁目(ヨコチ)	同同登丁目(ヨコチ)	同同登丁目(ヨコチ)	同同登丁目(ヨコチ)	同同登丁目(ヨコチ)	同同登丁目(ヨコチ)	同同登丁目(ヨコチ)	同同登丁目(ヨコチ)	同同登丁目(ヨコチ)	同同登丁目(ヨコチ)	同同登丁目(ヨコチ)	同同登丁目(ヨコチ)	同同登丁目(ヨコチ)	
岡嶋	報知	田中	富士	前田	梅村	森村	梅村	花村	山本	野原	石川	松本	八平	靜	道頓堀之居茶屋大取次尾張屋大儀○松川	○萬八○中村○角平○桑文○淀治○	○泉正○西鶴○中忠○此外諸方に賣捌所	數名有之候得共片面の節取換登記仕候	難く依而追々摺立の節取換登記仕候	同同登丁目(ヨコチ)	同同登丁目(ヨコチ)	同同登丁目(ヨコチ)

大取次

大坂心齋橋通二丁目
八幡と東入

芝居番附版元

玉取活版社

